

投資者の皆様へ

2026年2月20日



商 号 SBIアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第311号
加 入 協 会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

SBI オルタナティブ・ハイインカム・セレクト・ファンド(年4回決算型)
直近の米国クレジット市場について

平素より弊社ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

SBIオルタナティブ・ハイインカム・セレクト・ファンド(年4回決算型)(以下「当ファンド」)は、プライベート・クレジットを中心にバンクローン等、米国、欧州のクレジット市場に投資を行っております。

昨日のニューヨーク株式市場で、米大手投資ファンド、ブルー・アウル・キャピタルが運営する個人投資家向けプライベート・クレジット・ファンドが、四半期ごとに受け付けていた解約請求を停止することを発表したとの報道がなされました。その報道の影響と、今後の見通しに関しまして、当ファンドおよびマザーファンドの運用にあたって投資助言を受けている「SBIオルタナティブ・アセットマネジメント株式会社」からのコメントを以下のお知らせいたします。

今回の報道の背景ですが、ブルー・アウル・キャピタルの当該ファンドの特殊事情が大きく影響しているとの見方が大勢です。ブルー・アウル・キャピタルが解約請求を停止したファンドは、昨年来、解約圧力が増して来ており、秋の時点で、他のファンドと合併を図る動きがありました。既存投資家に損失が生じる内容でもあったことから、合併を見送った背景があります。

その後年初以降、米国株式市場において、AIによる事業環境変化への懸念から、ソフトウェア関連銘柄が下落し、それに伴って、ソフトウェア関連ローン債権価格も下落したことが、解約請求停止につながったと見られます。昨晩、ブルー・アウル・キャピタルは、傘下のプライベート・クレジット・ファンドの保有する資産を売却し、売却資金を投資家への資金返還、債務圧縮に充当すると報じられており、一旦は不安も和らぐと見られています。

続いて、年初以降、下落しておりましたソフトウェア関連ローン債権の影響についてコメントいたします。
下記のグラフは、米国バンクローンの価格推移です。昨年春の、トランプ関税ショック時に近い水準まで、下落しています。AIによる事業環境変化への懸念から、ソフトウェア関連銘柄が下落したことが背景です。
これにつきまして、当ファンドが投資している上場投資信託(KKR クレジット・インカム・ファンド、ジャナスヘンダーソンBBB-CLO ETF)の運用会社である、KKR、ジャナスヘンダーソンから、クレジット市場への影響、見通しについて、コメントを受領しましたので、以下にお知らせいたします。

【KKR】

KKRが運用するファンドに関しては、現時点で解約請求が増加していることはございません。他ファンドの解約理由は、①ベース金利の低下 ②報道で取り上げられた一部の限定的なクレジット懸念と考えられます。純流入は引き続きプラスを維持しております。また、主要BDC同業ファンドの多くは、四半期5%程度の上限を超える解約申込があったケースでも、すべての流動性要請に対応しており、慎重な流動性管理が有効に機能していることが示されております。懸念視されるプライベート・クレジット市場ですが、以下の2点から、環境は依然として良好と見ておりま

〇本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。〇本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。〇投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。〇投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。〇お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

す。①今後もベース金利は高止まりする見通しであること。②クレジットの悪化が見られるとしても、その影響は主に信用力の低い領域に限られる可能性が高いこと。

ただし、銘柄間・戦略間のばらつきは今後、拡大する可能性があり、クレジット選別の重要性は一段と高まると考えております。

【ジャナスヘンダーソン】

米国のバンクローン市場について：AIによる事業環境変化への懸念から、ソフトウェア関連ローンが大きく売られたことがパフォーマンス悪化の理由です。ソフトウェア関連債権はレバレッジド・ローン市場の15%超を占めており、格付もB及びB-格に集中しています。これら低格付のソフトウェア企業へのエクスポージャーを多く持つバンクローンは特にパフォーマンスが悪化しました。バンクローン市場全体というよりは、セクター限定的な動きと見ております。米国CLO市場について：BBB格のCLO市場はバンクローン市場と比較して堅調な推移となりました。CLOはセクター集中制限や、分散要件により、ソフトウェアやITサービスへの運用比率がバンクローン指数よりも低く抑えられています。また、CLOマネージャーはCCC格のソフトウェアへの投資比率を低く抑える傾向があります。

今後のクレジット市場の見通し：米国のクレジット・スプレッドは過去と比較するとタイトな水準にありますが、デフォルト率が管理可能な範囲であること、底堅い企業業績、比較的安定した経済状況が下支えすると考えています。現在のスプレッド水準を踏まえると、今後のトータルリターンは主にキャリー収益によって左右されるとみています。

2社のコメントにもありますが、今回の米国ブルー・アウル・キャピタルの件は、個別的なものと捉えておりますが、各投資信託の資産の状況については、引き続き、注視してまいります。

以上

米国バンクローン価格(Morningstar LSTA US Leveraged Loan Index)



作成：SBIアセットマネジメント株式会社

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

投資信託にかかるリスク

本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。また、外貨建資産には為替リスクもあります。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は預貯金と異なります。本ファンドの基準価額の主な変動要因や留意点としては以下のものがありますが、以下に限定されるものではありません。詳しくは各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご確認ください。

※投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本保証はありません。

主な変動要因

- バンクローンに関するリスク ●CLO(ローン担保証券)に関するリスク ●ダイレクトレンディング(ローン)に関するリスク
- ハイイールド社債に関するリスク ●ハイブリッド債に関するリスク ●レバレッジに関するリスク ●金利変動に関するリスク
- 流動性リスク ●為替変動リスク ●信用リスク ●カントリーリスク

その他の留意点

- ・本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ・本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てる必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- ・有価証券の貸付取引を行う場合は、取引先リスク(取引の相手方(レンディング・エージェントを含みます。)の倒産等により契約が不履行になること)が生じる可能性があります。
- ・投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- ・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- ・投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ・本ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該運用方式には運用の効率性等の利点がありますが、投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じ、マザーファンドの組入れETF(上場投資信託証券)に売買等が生じた場合等には、本ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。

お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。

お客様に直接・間接にご負担いただく費用等

(お買付時に直接ご負担いただく費用)

- お買付手数料： 購入価額に3.3%(税抜3.0%)を上限として、販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。
※詳細は販売会社にお問い合わせください。

(途中解約時に直接ご負担いただく費用)

- 信託財産留保額： ありません

(保有期間にファンダードが負担する費用(間接的にご負担いただく費用))

- 信託報酬(2026年2月20日現在)： 年1.5204%程度※（年1.2904%～年1.9404%程度）
※有価証券届出書提出時点で想定する投資配分を基に試算したもの
※本ファンドにおいて成功報酬制はありません。

●その他の費用

ファンダードの監査費用、有価証券等の売買委託手数料、保管費用等本ファンダードの投資に関する費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用(法律顧問・税務顧問等への報酬を含む)、開示書類等の作成費用等(有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等)が信託財産から差引かれます。

*これらの費用は監査費用を除き運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。

投資信託ご購入の注意

- 投資信託をご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時に受取りになり、内容をご確認ください。
- 投資信託は値動きのあるものであり、元本保証、利回り保証、及び一定の運用成果の保証をするものではありません。したがって、運用実績によっては元本割れする可能性があります。
- 投資信託の基準価額の下落により損失を被るリスクは、投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。
- 投資信託は預金ではなく、預金保険の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は、投資者保護基金の支払対象ではありません。

○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○お申込みの際には必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認の上、お客様自身でご判断ください。